

社協名	社会福祉法人 菊陽町社会福祉協議会
-----	-------------------

住 所	熊本県菊池郡菊陽町大字久保田 2 6 2 3 番地
電 話	0 9 6 - 2 3 2 - 3 5 9 3
ファックス	0 9 6 - 2 3 2 - 7 3 8 5
メール	ホームページ http://swkikuyo.or.jp Eメール info@swkikuyo.or.jp
担当部局及び 担当者	地域支援係 萩野政信 (作成 甲田峰子)

テーマ番号	事業・取組み名
3	「ほっとステーション武蔵ヶ丘」

取組のきっかけ

平成 19 年度、第 3 期地域福祉活動計画を受けて、菊陽町社会福祉協議会は地域福祉活動の推進に積極的に取り組んで行くようになりました。

その年、武蔵ヶ丘団地で、県社協の「孤立死防止モデル事業」に取り組み、武蔵ヶ丘団地の地域課題をさらに検討することができて、団地の課題が、各種相談の窓口の必要性、食生活の問題、地域のコミュニケーション不足といったことの実情が見えてきました。その解決策として、福祉の拠点を団地にと考え、武蔵ヶ丘ショッピングセンターの空き店舗での、縁側を中心とした地域が交流のできる広場の設置を取り組んで行きました。

* 取組開始日 平成 22 年 10 月 1 日

具体的な内容と事業の実施体制

平成 30 年 4 月県営団地 26 棟のショッピングセンター武蔵ヶ丘の一画に、空き店舗を利用してほっとステーションは誕生しました。

ほっとステーション内に「相談」「交流」「食」をテーマに交流拠点施設を設け、縁側、野菜の販売所、オーナーの惣菜の販売、福祉施設の物品販売、体操教室、趣味活動、リサイクル販売活動、健康相談活動等、様々な活動を発展させながら、地域の方々に支えていただきながら交流活動を立ち上げていきました。

年間行事として、桜の時期は花見、夏はそうめん流し、10 月は創業祭、リサイクル販売、演芸会等、多彩な活動を行っています。

武蔵ヶ丘団地は 昭和 48 年ごろに建設されたマンモス団地ですが、時を過ぎて若い世代が減少し、高齢者が増加するなど、時代が過ぎて、暮らしが変容してきました。

最近は一人暮らし高齢者や高齢世帯の転入が増えて、地域の関係がつながりにくいといった状況もあります。

ほっとステーションを支えるスタッフは、社会福祉協議会職員2名が常駐し、地域の支援いただく販売のオーナーや、交流室で知り合った方々、地域の自治会長の理解や支援によって成り立っています。老若男女、障がいがある方、ない方様々な方が交流されて行かれます。こういった方々のよりどころとなれるようにしたいと考えています。



団地の中の「ほっとステーション武蔵ヶ丘」



7周年記念でほっとバンドとコラボ

* 予算 平成30年度予算 142万円 (人件費を含まない)

実施の効果

来られる方から、ほっとバンドといった音楽を楽しむサークルも誕生しました。また最近では子どもたちの子供食堂の場所の提供などでもできています。

相談では、悩みを抱えた方がいち早く、相談できるよう、また内容が悪化しないように水際での関係機関へのつなぎを行っています。また高齢者方々などで買い物に困りごと、ゴミ出しが困っているといった内容のような、制度の狭間での困りごとの支援として、社会福祉協議会で取り組んでいる住民参加の「キャロットサービス」での生活支援に結びつけたり、団地の方が、行政に1年に1回提出する手続きの書類代行サービスといったこともしています。自分では公的なところに足を運ばない方への、相談がしやすい、つなぎ役としての役目を果たしているところです。食生活では安価な食事、ランチの提供や、新鮮野菜の提供といった、健康を考えての取組も継続して行っています。団地に住んでおられる高齢者にとって安心した生活ができる手助けの一助となっています。

今後の課題

設立して8年目を迎えました。これからも地域と語り合いながら、団地の課題解決をテーマに、これからも地域の拠点として活躍して行きたいと考えています。